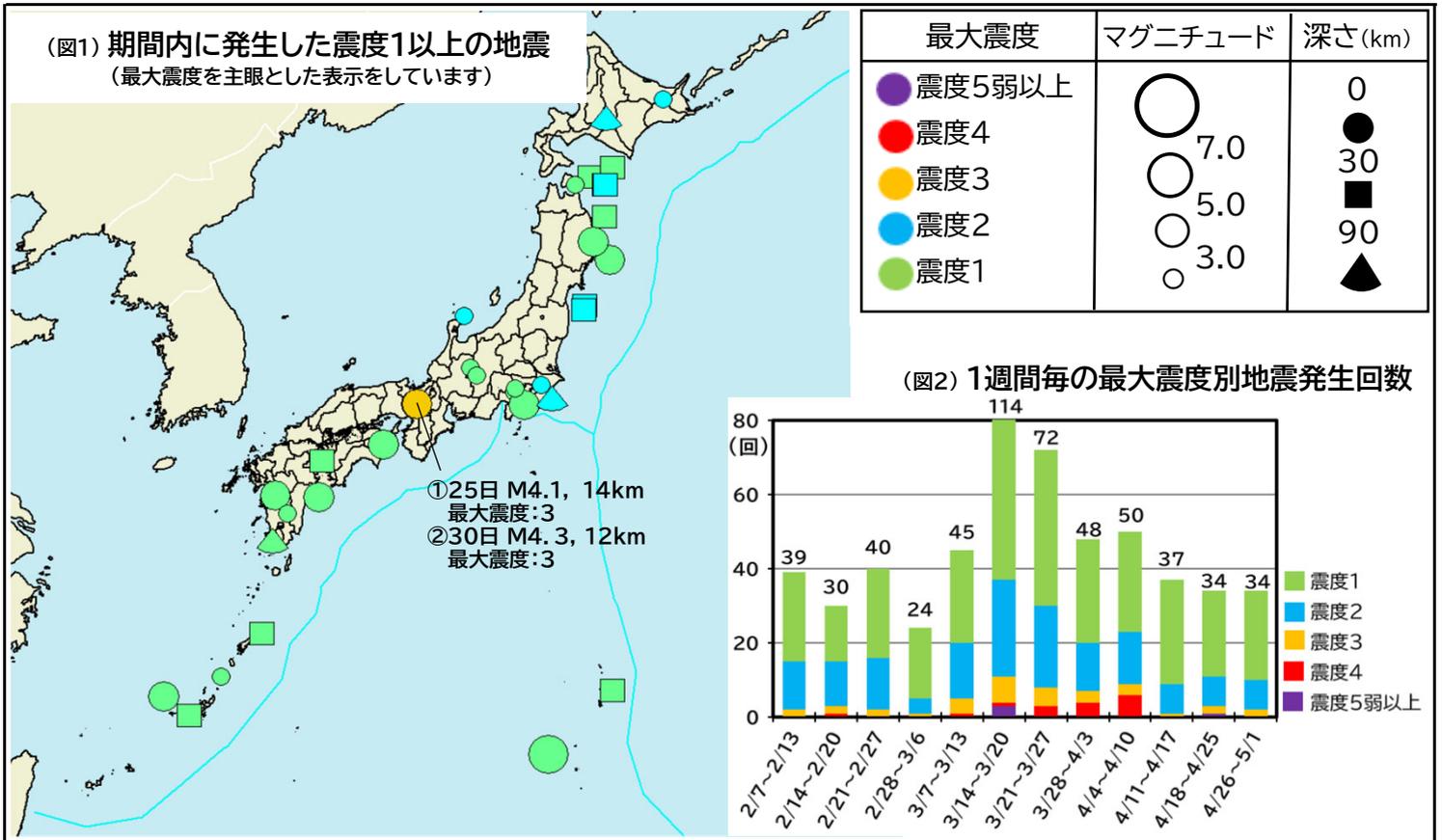


この期間の最大震度は3

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)



主な地震の発生状況 (図1,図2参照)

■ この期間、震度1以上の地震が34回発生。最大震度は3。 ■

- ①25日13時10分に京都府南部で発生した地震(M4.1、深さ14km)により、京都府京都市・亀岡市・久御山町 大阪府交野市・能勢町、兵庫県三田市で震度3を観測したほか、岐阜県から兵庫県にかけて震度2~1を観測。
 - ②30日18時06分に京都府南部で発生した地震(M4.3、深さ12km)により、京都府京都市・亀岡市・南丹市・京丹波町、大阪府豊能町・能勢町、兵庫県三田市で震度3を観測したほか、岐阜県から鳥取県、香川県にかけて①より広い範囲で震度2~1を観測。
- ・京都府南部では、今年3月から震度1以上を観測する地震が多くなり、5月1日までに最大震度4が1回、震度3が2回、震度2が2回、震度1が3回、合計8回発生した。

トピックス

■ 震度観測と震度情報 ■

- ・この週刊地震ニュースでは、主に震度1以上を観測した地震についてお知らせしていますが、その震度の観測から震度情報の発表までの流れの概要は以下ようになっていきます。
- ・震度を観測する震度計は、全国に約4,400点あります(平成の大合併以前の市町村に少なくとも1箇所あります)。
- ・気象庁が設置した約700点(図3は観測点の一例)と、自治体や防災科学技術研究所が設置した約3,700点、合計約4,400の震度計によって観測された震度データは通信回線を介して瞬時に気象庁に一元的に収集し、気象庁の発表する地震情報に活用しています。
- ・気象庁が設置した震度計は、気象衛星ひまわりを活用した通信機能を備えており、地上回線の通信障害時にもデータを送る体制を構築しています。
- ・気象庁に送られた震度観測データは、その観測値が正しいかどうかの品質管理処理を経て、他の観測データにより得られた震源要素を加えた緊急地震情報や地震情報として発表され、テレビ・ラジオやスマホなどによって私たちに伝達されています。

図3:震度観測から情報伝達の流れ(概念図)

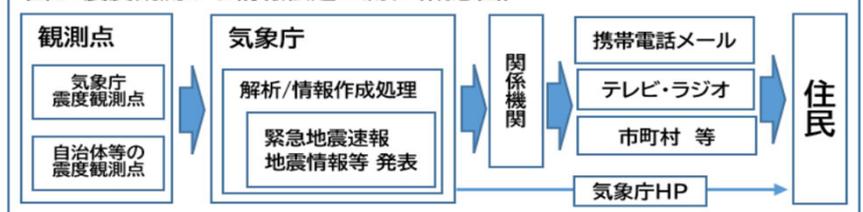


図4:震度観測点の一例